

■テント・タープのちがい

<テント>

宿泊に用いる屋根、壁、床が揃っているモノ

1人用の小型のものからサーカス小屋まで多種多様なテントが存在する



<タープ>

日差しや雨、風などを防いだり、テーブルやチェアを置いて食事をしたり

くつろいだりする場所を作る布状の屋根のこと



<サンシェード>

タープと同様に日陰を作るのが目的、決定的な違いは自立すること

ワンタッチで広がるものをポップアップテントともいう



■テントの種類

<3シーズンテント>

名前の通り3シーズンに使いやすいテント(春、夏、秋に使うのが一般的)

メッシュインナータイプが多く、通気性が良いのが特徴

4シーズンタイプより軽量でコンパクトなものが多い



<4シーズンテント>

オールシーズン使える設計。『断熱と換気』を両立できる

耐水、防水にも長けているため3シーズンテントよりは高い

雪や冷気が入らないように下にスカートがついているのが特徴



<その他>

悪天候の耐久性が非常に強いベースキャンプ用テント、

緊急の野宿などで使える手軽なツェルトなどがある



■テントの形状

・ドームテント

今一番主流のタイプで、柱となるポールを反らせて組み立てるタイプ
軽くコンパクトに作られているものが多い



・ワンポールテント

見た目がおしゃれで流行っているテント。『ティピー型』とも呼ばれる。
メインポールが中央の柱一本で設営簡単でコンパクトに収納が出来る



・ロッジ型テント

今は少なくなった小屋型のテント。天井が高く、組み立てが
簡単だが、ポールが重くかさばる為、利用者は減っている



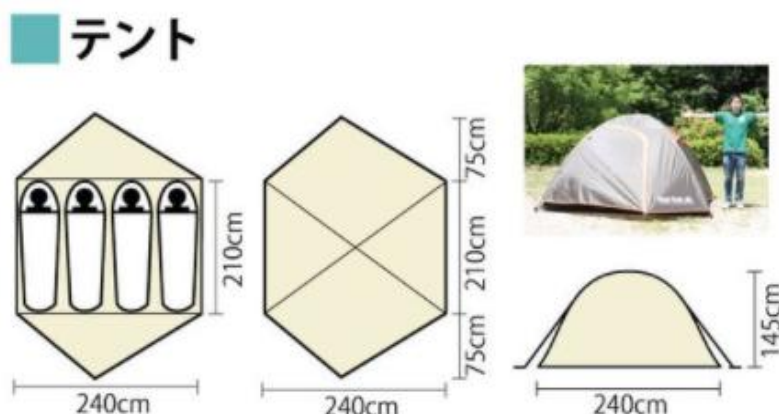
・ワンタッチテント

取り出して金具を取り付けるだけで設営が出来る簡単なテント。
DODの製品などは傘を開くように骨組みを持ち上げて設営する



■テントの大きさ

メーカーが公表しているテントのサイズは最大収容量です。例えば、4人用テントというテントに4人家族で行くとなると荷物で約大人一人分の置き場を要するので実質3人しか寝れないということもあります。
その為、4人家族でキャンプをする場合には5～6人用テントをオススメした方が良いです。



↑ 荷物を置くスペースはないし、隣との余裕がない

■付属品の名称と役割

	ペグ	地面にテントを固定するための杭。金属製とプラスチック製がある
	自在ロープ	テントやタープをペグに結び付けて使うロープ 金具がストッパーとなり、自由に伸ばしたり緩めたりできるのが特徴
	フライシート	インナーテントの上から被せるシートで防水性や通気性を調整する役割がある
	インナーテント	寝室となるテントの本体。フライシートの内側に張るテントのこと
	ポール	メインポール、サブポールがあり本体用の柱となるもの ゴム紐で連結されているため、ワンタッチで組んだり外したり出来る
	グラウンドマット	テントの床部分に敷くことで防水や遮熱効果がある 厚みがあり、地面がデコボコでも快適に過ごせる
	ペグハンマー	ペグを打ち込む専用ハンマー。テントに付属のプラスチック製の安価品から 本格的な3,000円くらいするものもある
※セットの物もちろんありますが、別売りの物の多くあります		

■覚えておきたいテントの主なメーカー(ブランド)

	コールマン	言わずと知れたアメリカのアウトドア総合メーカー。 テントも一番買い取りが多いブランドといってよい
	スノーピーク	新潟県三条市に本社を置くアウトドア総合メーカー。 品質の高さを売りにしており、価格帯はコールマンより上
	ogawa(オガワ)	元のオガワテントは経営破綻したが、今もキャンパルジャパンが 職人気質なテントを製造している為、ファンは多い
	モンベル	大阪に本社を置く日本のアウトドア総合メーカー。 テントに関しては登山家の利用が多く、ソロテントのラインナップが強い。
	DOD	2018年に日本の自転車ブランド「ドッペルギャンガー」が立ち上げた アウトドアブランド。デザインが個性的で人気上昇中
	ロゴス	日本のアウトドア総合メーカー。幅広いテントをラインナップ。 安価な路線だったが、最近はおしゃれなブランドになりつつある
	キャプテンスタッグ	新潟県三条市の台所用品メーカー「パール金属」が展開するアウトドアブランド。 ホームセンターを中心に安価な商品を展開している
	プロモンテ	HCSが展開するダンロップテントに代わる新ブランド。ダンロップテントと 共にツーリングテントに強く、ライダーから愛されている人気テント。
	ノルディスク	デンマークのアウトドアブランド。コットン素材のテントで熱的な愛好家がいる。 真っ白でおしゃれだが、汚れやすく日本ではカビが生えやすいのが欠点。

参考プライス(大プライス)



1行目:商品名 / 定員数

2行目:本体サイズ / あればインナーサイズ

3行目:耐水圧

備考1行目:コンディション 詳細記入

備考2行目:付属品の状態

■テントまとめ

テントは説明書があれば、必ず付属品を確認をして買い取り、販売を行いましょう。

年数の経ったテントはフライシートの内側のシムテープ(止水テープ)が加水分解でベタベタに劣化します。

状態によって販売価格は大きく変動しますのでチェックをしてプライスに細かく記載しましょう。

またチェックをした際に、加水分解、カビ、破れがあった場合、本体の販売は出来ませんが、付属のペグやパーツは販売が出来るので、JUNK扱いで買い取りをしてください。

認識としてペグや自在ロープ等は【消耗品】であり、買い足して使うものとして考えておくのがベストです。

テントは継続的に同じモデルを展開して、名前は同じでも商品がマイナーチェンジしている場合があります。

取扱説明書がある場合は型番をチェックして調べたり、状態で判断しましょう。

テントは耐水圧というのを重視して購入を考える人も多いです。

耐水圧の目安は一般的に1500mm～2000mmと言われています。

【耐水圧が高いメリット】

- ・防水性が高い
- ・激しい雨風にも耐えられる
- ・冬は冷気を遮断してくれる。

【耐水圧が高いデメリット】

- ・通気性が悪い
- ・結露が出来やすい
- ・夏はテント内部が蒸し暑くなる

上記の通り、メリットデメリットがあるので耐水圧が高ければ良い！というわけではなく

キャンプシーンによって使い分けるのが一般的です。

■ランタンの種類

<ガソリンランタン>

主にホワイトガソリンを使って点火させるランタン 屋外専用

<ガスランタン>

ガスを使って点火させるランタン 屋外専用

<電池式ランタン・充電式ランタン(バッテリータイプ)>

電池を使って点灯させるランタン 屋内外使える

■コールマン・ガソリンランタン種類

・220シリーズ

製造開始に作られたモデル 220Aのように数字の後ろにアルファベットがついて型番となっている

・286 288シリーズ

現行で最もよく見るランタンの一つ。シングルマントルランタンとして販売された。

現在は2マントルも販売されています。

色は定番の緑と赤があります。

ホワイトガソリン専用

・295シリーズ

特徴的なのは色が銀色である事。

最大の特徴は、ホワイトガソリンに加えてレギュラーガソリンも使える事。

レギュラーガソリンとホワイトガソリンは燃料としては全く別物なのでレギュラーガソリンをメインで使っていると故障しやすくなります。

・シーズンランタンシリーズ

2005年から毎年販売されているランタン。コールマンジャパンが日本国内のみで限定販売されている為

コレクターが多い商品です。定価以上での取引が多い商品です

■ガソリンランタンの査定、生産のポイント

- ・ポンピングが出来るかを確認
- ・ガラス部分(グローブ)が割れ、ヒビが入っていないかを確認
- ・ポンピング後、つまみを回して空気圧の『シュー』という音が一定かを確認
- ・ポンピングが出来るかを確認したら溜まった圧を抜いて査定、生産してください

まずは上記をしっかり確認してみましょう。

ポンピングをしてみてスカスカで空気が溜まっていかないような感じであったらJUNKか修理で解決できます。

ポンピングの不良の原因はほとんどがポンプカップ、ポンププランジャーの劣化によるものです。



ポンプカップは単品で300円あれば買い換えられます。

右上の画像のポンププランジャーキット(ポンピング一式)でも2000円程で買い換えられます。

上記パーツは消耗品の為、取り替えながらランタンを長く愛用出来るようになってます。

参考プライス(小プライス)

リユース品			
メーカー	Coleman	品名	ランタン
型番	286A740J	定価	14,800円
¥ 11,000		税込	10日
本体価格	¥ 10,000	年式	2020
燃料タンク容量: 約590cc ホワイトガソリン専用			
備考 燃焼時間: 約7.5~15時間			
製造番号	11TW 211000	商品番号	11TW 211000
OFF House			



壊れていたランタンを分解しました

分解してみると16個のパーツになりました。これは全てが交換可能な消耗品です。

すなわちバラで販売が出来るJUNKになるという事です。



↑この小さいネジはランタンの天辺を止めているネジ。これも100円から200円で売れます

ガソリンの給油口のフタも200円で売れていきました。

上記写真の16点を生産したら売価で4000円になり1週間経たず完売しました。

ハードケースは2000円で売れていきます。

それぞれのパーツは交換が可能ですので、バラシて売るのがかパーツを交換して完動品として販売するのかわどちらが効率が良いかを考えて生産をしていきます。

キャンプ

目次

1.	概要	．．．．．	2
2.	商品知識		
	2-1.テント・タープ	．．．．．	3-6
	2-2.シュラフ(寝袋)・マット	．．．．．	7-8
	2-3.ランタン	．．．．．	9-10
	2-4.バーナー	．．．．．	11
	2-5.代表的なメーカー	．．．．．	12

更新履歴

更新日付	更新内容	担当部署	担当者
2026/1/8	新規作成	店舗運営本部	S.Maniwa
2026/3/9	更新	直営店舗運営部	Y.Hasegawa

1. 概要

①新品市場

キャンプ人口の増加と多様化により、「高品質・高機能」「汎用性の高い」「デザイン性の高い」ギアへの需要が高まっています。購入行動も安価な低価格品から品質の良いものへシフトしています。

1人で楽しむソロキャンプ向けの軽量・多機能製品もトレンドになっています。

国内のキャンプ・アウトドア市場規模は約4,600億円～5,000億円で今後も拡大の見込みです。

②中古市場

キャンプ人口増加に伴い、買い替えや手放しによる中古品も増加しています。

また、新品に比べて購入のハードルが下がるため、キャンプ初心者の新規参入を手助けしています。

特にBBQグリルなどのデイキャンプ用品やランタン、ケトルなどの小物類の取引は活発です。人気ブランドの廃盤品や限定品など希少で高価なものもあります。

オフハウスでのキャンプ用品の構成比は約1.5%です。

③季節による需要の変化

春・夏(3月～8月)は家族向けの大型テントやクーラーボックス、BBQコンロの需要がピークになります。

秋・冬(9月～12月)は高機能なダウンシュラフ、ストーブ、ソロキャンプ向けのものの需要が急増します。

キャンプ用品の需要が高まるのは特に春から初夏(3月～6月)にかけてですが、年間を通して季節にあったアイテム陳列を行いましょう。

△ポイント

キャンプ用品は幅広いアイテムが存在しますが、命に関わる道具も多いため安全性に特に注意しましょう。

キャンプブームと言われるものが過去に2回起きております。第一次キャンプブームは1990年代と言われており、2015年頃から2020年代までが第二次キャンプブームになります。ハードオフグループに持ち込まれるキャンプギアでは90年代の古いキャンプギアがまだ多く、これらは中古市場での需要はとても低いものになります。

90年代のテントやタープ類は劣化が激しいものが多いので買取・販売は出来ません。

キャンプブームの背景を覚えておくと査定の簡略化ができます。

2. 商品知識

2-1. テント・タープ

テント・タープは形状により大きく6種類に分けられます。

①ドーム型

最もスタンダードなテントで、2～6本ほどのポールで自立させたインナーテントにフライシートをかけて設営するタイプです。設営の手軽さとコンパクトに収納できるのが特徴で強度があり風にも強いですが、室内が半円形になっているため、ロッジ型テントと比べるとやや狭く感じます。ワンタッチ組み立てテントもこの種類に入ります。



②ロッジ型

その名の通り小屋の形をしたテントです。ポールで骨組みを作り、その骨組みにインナーテントを吊るして上からアウターテントをかぶせて設営します。1つのテントにスペースがいくつもあり居住性に優れたテントですが、構造がやや複雑なためテントを張るのに慣れと設営時間が必要です。長期滞在のキャンプや大人数でのキャンプに向いています。



③ツールーム型

ドーム型テントとロッジ型テントの長所を兼ね備えたタイプです。基本の形はドームでありながら、前室を含んだ広いスペースを確保しています。ドーム型に比べて値段は上がりますが、家族が多い方、ゆったりとしたスペースを確保したい方に向いています。



④Aフレーム型

ポールにテント本体を吊り下げて設営するだけのシンプルな構造をしたテントです。

ポールをスリーブに通す必要がないので設営がとても簡単に行えます。



⑤登山用テント

基本的には2本のポールをクロスさせてその張力で立てるドーム型が主流です。仕舞寸法(テントを収納した際の縦・横・高さのサイズ)が小さく、風を避けるために背が低いのが特徴です。ツーリング用のテントもこの種類に入ります。



⑥タープ

日差し・雨を防ぐための広い布を2本以上のポールとペグとロープで屋根のように張るタイプです。

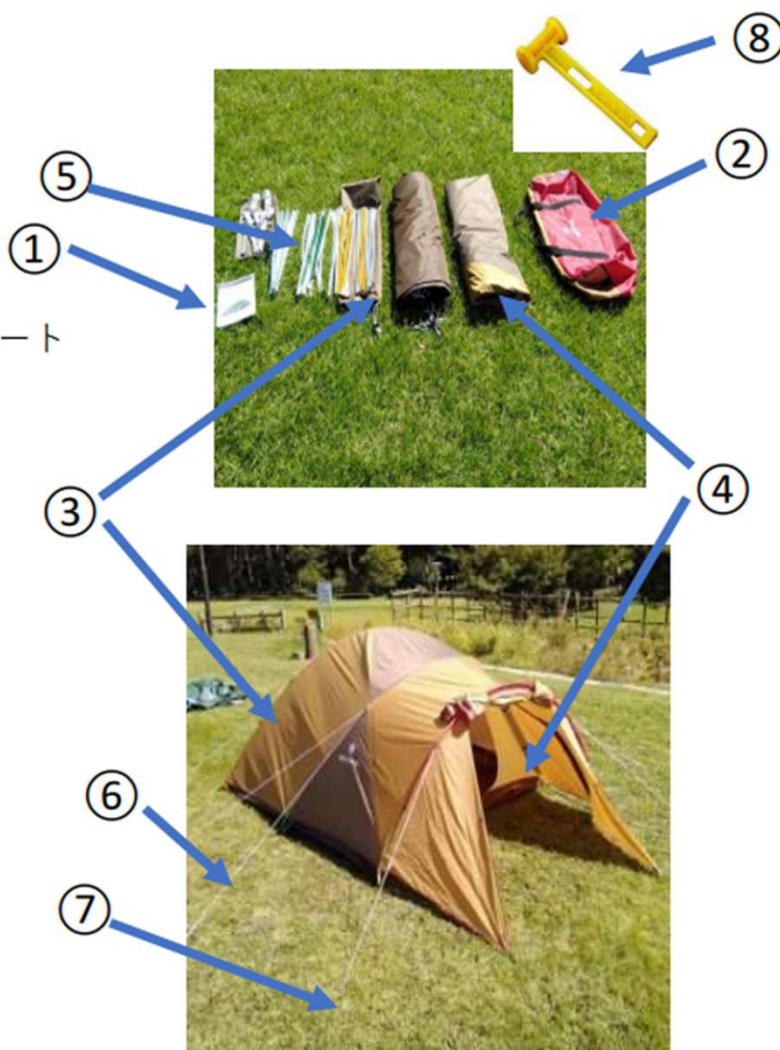
リビング・ダイニングの役割を果たします。

ヘキサ型、スクリーン型、スクエア型、自立式があります。



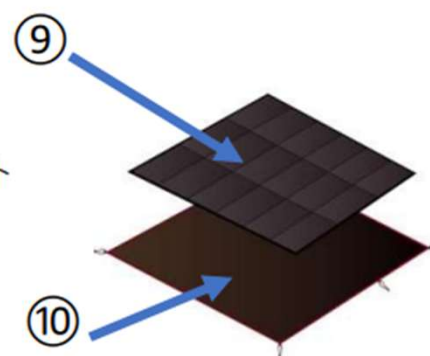
＜テントの設営に必要なもの＞

- ①説明書・・・付属品の確認に必要
- ②収納袋
- ③フライシート・・・雨風から本体を守るシート
- ④インナーテント・・・テント本体
- ⑤ポール・・・テントを支えるもの
- ⑥自在ロープ・・・地面に固定するための
- ⑦ペグ・・・ロープを地面に打ち付ける杭
- ⑧ハンマー・・・付属していないテントもあります



テントとは別売のもの

- ⑨インナーマット・・・ テント内に敷くマット
- ⑩グラウンドシート・・・ テント本体を保護するためのシート
地面に敷いた上にテントを設営



△ポイント

テントは「フライシート」「インナーテント」「ポール」が設営に必要です。
それ以外は欠品していても販売可能です。

90年代のキャンプブーム時代のテントは生地の変質（ベタ付き）が多く見られます。
この年代のテント・タープは買い取り不可です。

<タープの選び方>

リビングの役割になるタープは形によって通気性や開放感が変わってきます。

タープの選び方				
	ヘキサタープ 	スクエアタープ 	自立式タープ 	スクリーンタープ 
総合性	○	×	△	○
設営	○	×	○	△
虫除け	×	×	×	○
雨・風に強い	○	△	×	○
プライベート性	×	×	△	○
アレンジ性	○	○	△	△
コンパクト性 (収納性)	○	△	×	×

△ポイント

通気性が高く、開放感を求めるならヘキサタープ・スクエアタープ、開放感は求めず、プライベート性を求めるならスクリーンタイプ、デイキャンプやBBQなどのレジャーには自立式タープがおすすめです。

入門者はタープの選択で悩む方が多いです。おすすめのポイントをプライスに記載することで選びやすくなります。

2-2.シュラフ(寝袋)・マット

シュラフとは人がすっぽり入れる袋状をしており、羽毛や化学繊維の綿が保温材として中に詰められています。ポリエステル綿が使われている物が多いですが、小型軽量化・高性能化のために羽毛(ダウン)を使った物があります。

①封筒型(レクタングラー型)

上から下まで同じ幅の長方形のシュラフです。
ゆったりしているので布団に近い寝心地を持つ反面、体への密着性が低いので保温効果に劣ります。
ファスナーが付いており、開け閉めにより温度調整が容易に行えるようになっています。
価格は安価なものが多く、洗濯機で洗えるものも多いためメンテナンスも楽なのが特徴です。
重い部類に入り、収納性も悪いためキャンプ向きです。
ファミリーキャンプや車中泊、夏場のキャンプに適しています。



②マミー型(人形型)

このシュラフに寝た様子がミイラに似ていることから、名称はミイラを意味します。
体の形の合わせた形状のためムダな隙間ができず、封筒型に比べて保温性が高いです。
封筒型に比べて軽く収納性が高いため登山などに利用されます。
登山やソロキャンプ、冬場のキャンプに適しています。



③2本足独立型

2本足に分かれ、シュラフに入っても動きやすい自由度の高いタイプです。

寝袋を選ぶ際には温度表示も決め手になります。
一般的に、暖かく快適に睡眠できる温度(コンフォート温度)は
夏用：5～10℃
冬用：-5℃以下
3シーズン(春夏秋)：-5～5℃
が目安になります。
※快適使用温度と表記されている場合もあります

基本的におすすめはできないが工夫次第でなんとか使用できる温度のことを限界使用温度といいます。



△ポイント

プライスカードには寝袋の形状や素材、快適温度を記載しましょう。

形状によって適した用途やターゲットが異なります。
また、中綿の素材が羽毛かポリエステルなどの化学繊維かによって価格も変わってきます。
羽毛：軽くて収納サイズもコンパクト。寝心地も快適。ただし濡れに弱く、価格も高価。
化学繊維：濡れに強くすぐ乾き、保温力もすぐに回復。

査定の際にはジッパーの動作に問題はないか、カビや臭いはないか、収納袋などの付属品はあるかなども確認しましょう。

シュラフとセットで使うのがマット・コットです。
硬い地面の上で快適に寝るためには必要なアイテムで、シュラフの下に敷いて使います。
ベッドの役割を果たします。

①インフレーターマット

角にあるバルブを緩めると自然と空気が入り、使用しないときはコンパクトに収納できます。
寝心地も比較的良く、断熱効果もあります。



②エアーベッド

硬さの調節が可能で快適な寝心地があり、収納時はコンパクトに収納できます。
空気を入れて使用するため、設営は面倒といえます。



③ウレタンマット

断熱性に優れていますが、クッション性は低いため寝心地は良くありません。
パンクの心配がなく、軽量で持ち運びも便利です。



④銀マット

断熱性がありますが、寝心地は悪いです。
他のマットと使用することで断熱効果を上げることが出来ます。
価格が安く、コストパフォーマンスは高いです。



⑤コット

地面から離れるため、夏は通気性が良く、冬は断熱性が向上します。
ソロキャンプや少人数キャンプ向き。ファミリーなどの多人数キャンプには不向きです。



△ポイント

マット・コットはテント泊に必要なギアです。収納するとシュラフやチェアと分かりずらくなるためプライスには名称を記載しましょう。
また、マット・ベッド類はサイズもプライスに記載しましょう。

3.ランタン

持ち運べるランプで、キャンプを安全に行うために必要です。
使う用途によってギアも変わってきます。

①LEDランタン(電気式)

安全かつ手軽に使うことが出来るタイプですが、光力はガソリン式に劣ります。
内臓バッテリーに充電して使うものと乾電池使った物があります。
テント室内でも使用でき、**キャンプ初心者でも扱いやすいランタン**です。



②ガス式ランタン

一般的にはLPG(液化石油ガス)を使用したタイプで、カートリッジタイプとカセットタイプがあります。
ポンピングなどの作業がなく扱いが比較的簡単です。マントルが必要なタイプなど、メーカーによってタイプが違うので注意が必要です。
テント室内では使えません。



③オイルランタン、ハリケーンランタン

パラフィンオイルを燃料としたタイプです。
光量は多くなく、ソロキャンプなどで人気のギアです。



④ガソリン式ランタン

自動車用のガソリンよりも精製度合が高い『ホワイトガソリン』を燃料にしたランタンで、ランタンの中では最大級の光量です。
使用前にポンピング(ガソリンを空気と混合させ燃焼しやすい状態にするために必要な圧力を作り出すこと)という手間が必要となるため、**キャンプ上級者向けで、使用しているユーザーは極わずかです。**
ガスランタンに比べ経済的かつ、安定した光量が得られるのが特徴です。マントルという発光体を付けて使用します。
テント室内では使えません。



↑マントルは「ちょうちん」のような形

⑤ローソク式ランタン

文字通りローソクを使ったタイプです。
光力が弱いため、サブとして使用されます。



△ポイント

人気はLEDランタンになります。

乾電池式タイプは液漏れなどの劣化症状が出ているものが多く、査定時には必ず確認してください。年式の古い電気式では蛍光灯を使用しているランタンもあります。

蛍光灯は中古需要は無いに等しく取り扱い不可です。

<参考>

Colemanガソリンランタンについて

ガソリンランタンの販売シェア9割を占めているのが「Coleman」のランタンになります。
このColemanのガソリンランタンは製造年月が本体底面に刻印されており、製造された年代がわかります。
年代の見方は図をご参照ください。



製造された年代によって中古相場も大きく変わるため注意が必要です。

概要でも触れた第一次キャンプブームと言われる**1990年代から2010年代**のガソリンランタンは中古市場に多く出回っているため需要は低く販売価格も新品価格の3割以下となります。

第一次キャンプブーム（1990年）より古いガソリンランタンは要注意です。

ヴィンテージランタンと言われるものになります。

80年代以前のモデルは古くなれば古くなるほど中古市場にある数は少なくなり、中古相場も高くなります。80年代以前のものはよく調べて査定しましょう。

△ポイント

ガソリンランタンは動作確認を行うのに専用の道具が必要になります。
動作確認ができない場合はプライスに必ず動作確認していない事を記載しましょう。
価格は動作確認済みの中古相場から2割ほど安く売価設定をしてください。

2-4.バーナー

バーナーは大きく2種類に分けられます。

①ガス式バーナー

ガスバーナーは強い火力が得られ、比較的安全といえます。
バーナーとカートリッジ式のボンベで構成され、底にボンベを取り付けて使用します。

欠点としてはガスの残量が目では見えないため火力が弱くなり、炎が出なくなったことで分かります。

「PS LPG」マークが付いているもののみ取り扱い可能です。
ガストーチも「PS LPG」マーク対象です。



シングルバーナー



ツーバーナー

②ガソリン式バーナー

タンクにガソリンを注入して使用します。

ポンピングなど着火までにひと手間いりますが、力強い炎と燃焼時の音が静かです。メンテナンスを怠らなければ長く使うことが出来る耐久性を持つのが特徴です。



△ポイント

「PS LPG」マークについてはコンプライアンスマニュアルやハードオフルールも確認し理解しておきましょう。

点火装置やガス缶との接続部のパッキン、ガス漏れなど安全性に問題がないかよく確認します。

2-5.代表的なメーカー

メーカー	読み方	ロゴ	国
Coleman	コールマン		アメリカ
LOGOS	ロゴス		日本
Snow peak	スノーピーク		日本
SIERRA DESIGNS	シエラデザインズ		アメリカ
Quechua	ケシュア		フランス
CAPTAIN STAG	キャプテンスタッグ		日本
SOUTH FIELD	サウスフィールド		アメリカ
MONT BELL	モンベル		日本
小川キャンパル	オガワキャンパル		日本

ポイント

主要メーカーのロゴや定番モデルなどは覚えておきましょう。
キャンプスタイルや価格帯がメーカー選びのポイントにもなります。

テントの形状

・テント

宿泊に用いる屋根、壁、床が揃っているモノ

・タープ

屋根だけの物が多く雨を防ぐスペースや日陰を作るのが目的

運動会で来賓の人たちが座っているところにある屋根みたいなやつです

・サンシェード

タープと同様に日陰を作るのが目的、決定的な違いは自立すること

テントの種類

・3シーズンテント

名前の通り3シーズンに使いやすいテント(春、夏、秋に使うのが一般的)

・4シーズンテント

オールシーズン使える設計。『断熱と換気』を両立できる

耐水、防水にも長けているため3シーズンテントよりは高い

その他

ベーステントキャンプ、ツェルトがありますがあまり買取で入って来ません。

悪天候の耐性が非常に強い、緊急の野宿で使えるような使いやすさが特徴です。

・ドームテント

軽くコンパクトに作られている為、現在の主流となっている形

・ワンポールテント

『ティピー型』とも呼ばれる。メインポールが中央の柱一本で設営が出来る比較的手軽に使いやすいテント

・ワンタッチテント

取り出して金具を取り付けるだけで設営が出来る簡単なテント。

テントの大きさ

メーカーが公表しているテントのサイズは最大収容量です。例えば、4人用テントというテントに4人家族で行くとなると荷物で約大人一人分の置き場を要するので実質3人しか寝れないということもあります。

その為、4人家族でキャンプをする場合には5～6人用テントをオススメした方が良いです。

付属品の名称と役割

- ペグ・・・地面にテントを固定するための杭
 - 自在ロープ・・・木に固定したりペグに結び付けて使うロープ
 - フライシート・・・テントの本体の上から被せるシートで防水性や通気性を調整する役割がある
 - ポール・・・メインポール、サブポールがあり本体用の骨組みなイメージ
 - グランドマット・・・テントの床部分に敷くことで防水や遮熱効果がある
- 地面が砂利等、デコボコした所でもグランドマットを敷くと座っていても痛くないです。
- ※セットの物もちろんありますが別売りの物の多くあります

テントの主なメーカーと価格帯

COLEMAN			
テント名称	収容人数	新品	中古相場(オフの参考売価)
クロスドーム270	4人～5人くらい	20,000円～30,000円	6,000円～18,000円
タフドーム	4人～5人くらい	20,000円～30,000円	6,000円～18,000円
タフワイドドーム	4人～6人くらい	50,000円～60,000円	20,000円～30,000円
4シーズンテント	4人～5人くらい	50,000円～100,000円	40,000円～80,000円

※査定時、メインポールの欠損やフライシートの劣化、破れ、防水の劣化を見るようにしてください

テントまとめ

テントは説明書があれば付属品を確認をして買取、販売を行いましょう。

フライシートが加水分解、カビ、破れがあった場合本体の販売は出来ませんが付属のペグやパーツは販売出来るのでJUNK扱いで買取をしてください。

認識としてペグ、自在ロープ等は消耗品であり買い足して使うものとして考えておくのがベストです。

テントは耐水圧というのを重視して購入を考える人も多いです。

耐水圧の目安は一般的に1500mm～2000mmと言われています。

【耐水圧が高いメリット】	【耐水圧が高いデメリット】
・防水性が高い	・通気性が悪い
・激しい雨風にも耐えられる	・結露が出来やすい
・冬は冷気を遮断してくれる。	・夏はテント内部が蒸し暑くなる

上記の通り、メリットデメリットがあるので耐水圧が高ければ良い！というわけではなく
キャンプシーンによって使い分けるのが一般的です。

参考プライス(大プライス)



- 1行目:商品名
- 2行目:定員
- 3行目:耐水圧
- 備考 :本体サイズと、あればインナーサイズ
- 製造番号:その他スバックや欠品を記載

ランタンの種類

・ガソリンランタン

主にホワイトガソリンを使って点火させるランタン 屋外専用

・ガスランタン

ガスを使って点火させるランタン 屋外専用

・電池式ランタン 充電式ランタン(バッテリータイプ)

電池を使って点灯させるランタン 屋内外使える

ガソリンランタン種類

・220シリーズ

製造開始に作られたモデル 220Aのように数字の後ろにアルファベットがついて型番となっている

・286 288シリーズ

現行で最もよく見るランタンの一つ。シングルマントルランタンとして販売された。

現在は2マントルも販売されています。

色は定番の緑と赤があります。

ホワイトガソリン専用

・295シリーズ

特徴的なのは色が銀色である事。

最大の特徴は、ホワイトガソリンに加えてレギュラーガソリンも使える事。

レギュラーガソリンとホワイトガソリンは燃料としては全く別物なのでレギュラーガソリンをメインで使っていると故障しやすくなります。 ※現在はレギュラーガソリンの持ち運びが出来ないので実質ホワイトガソリン専用です！

・シーズンランタンシリーズ

2005年から毎年販売されているランタン。コールマンジャパンが日本国内のみで限定販売されている為

コレクターが多い商品です。定価以上での取引が多い商品です

ガソリンランタンの査定、生産のポイント

- ・ポンピングが出来るかを確認
- ・ガラス部分(グローブ)が割れ、ヒビが入っていないかを確認
- ・ポンピング後、つまみを回して空気圧の『シュー』という音が一定かを確認
- ・ポンピングが出来るかを確認したら溜まった圧を抜いて査定、生産してください

まずは上記をしっかり確認してみましょう。

ポンピングをしてみてスカスカで空気が溜まっていけないような感じであったらJUNKか修理で解決できます。

ポンピングの不良の原因はほとんどがポンプカップ、ポンププランジャーの劣化によるものです。



ポンプカップは単品で300円あれば買い換えられます。

右上の画像のポンププランジャーキット(ポンピング式)でも2000円程で買い換えられます。

上記パーツは消耗品の為、取り替えながらランタンを長く愛用出来るようになってます。

参考プライス(小プライス)



プライス右上品名には『ガス、ガソリン

電池式』等の燃料の種類を記入する

1行目:燃料容量(ネットで調べて)

備考 :燃焼時間(ネットで調べて)

製造番号:マンツルの種類 付属の有無



壊れていたランタンを分解しました

分解してみると16個のパーツになりました。これは全てが交換可能な消耗品です。

すなわちバラで販売が出来るJUNKになるという事です。



↑この小さいネジはランタンの天辺を止めているネジ。これも100円から200円で売れます

ガソリンの給油口のフタも200円で売れていきました。

上記写真の16点を生産したら売価で4000円になり1週間経たず完売しました。

ハードケースは2000円で売れていきます。

それぞれのパーツは交換が可能ですので、バラシて売るのがかパーツを交換して完動品として販売するのかわどちらが効率が良いかを考えて生産をしていきます。

プライスの種類

小プライス

	1行目	備考	製造番号
Gケース内の物			
ランタン	燃料容量	燃焼時間	マンツルの種類

大プライス

	1行目	2行目	3行目
テント	商品名	定員	耐水圧
タープ	商品名	定員	耐水圧
サンシェード	商品名	定員	耐水圧
ツバーナー	燃焼時間	燃焼容量	屋内外使えるか

	備考	製造番号
テント	本体サイズ	その他スペックや欠品を記載
タープ	本体サイズ	その他スペックや欠品を記載
サンシェード	本体サイズ	その他スペックや欠品を記載
ツバーナー	付属の有無	その他スペックや欠品を記載

揚げプライス

- シュラフ
- フォールディングチェア
- ポップアップテント

ラベラー

その他

コールマンのガソリンランタンについて



Colemanのガソリンランタンには燃料タンク底に製造年と製造月が刻印されています。

キャンパーの中ではバースデーランタンという自分の誕生日・誕生月のものを
探している方もいます。

プライスには製造年・製造月まで記入しましょう！

Colemanの人気廃盤モデル

・ 200A	
	通称：赤ランタン 1951年～1983年まで製造された赤いボディが可愛いランタン 中古市場でも最安値でも20,000円前後で売買されている 1993年頃から販売した復刻版「200B」も現行では販売していないためとても人気
・ シアーズランタン	
	アメリカのデパートシアーズにてColemanのOEMとして販売されたランタン。 燃料タンクには製造年・月が刻印されている
・ シーズンズランタン	
	Colemanジャパンが日本国内で独自に企画し、米国本社の工場にて製造されたりミテッドエディション（限定版） 2005年より販売開始 定価33,000円（税抜）だが、中古相場は60,000円以上